



はじめに

人と自然の博物館（ひとはく）は、当年度においても、調査・研究や生涯学習事業をはじめ、地域活性化活動などにますます精力的に取り組んでまいりました。

調査・研究活動の一環としては、兵庫県丹波市と丹波篠山市に分布する篠山層群から採取された岩砕から化石を剖出する作業に関わる「化石剖出ボランティア」を募集する人材育成事業を開始し、恐竜化石関連の研究活動を推進しました。資料・展示については、県内の自然の豊かさを知り、地域の自然に親しむことを目的とした「ひょうご五国の自然展」の開催や、当館の大型コレクションを活用した「美しき蝶たちとの出会いー江田コレクション展 2018」を開催したほか、「標本のミカタ」と題し、普段は見るできない収蔵資料を各回テーマにもとづいて蔵出しする収蔵資料展を全8回開催するなど、標本資料の積極的な活用を図りました。また、自然史系の他館と連携した「自然史レガシー継承・発信事業」において自然史資料の重要性を発信する展示「仏教と自然 Where culture meets nature～日本文化を育んだ自然～」を行いました。教育普及活動の一環としては、国際花と緑の博覧会記念協会と台湾台北市立動物園とともに「高校生のための生き物調査探検ツアーin台湾」を実施しました。さらに、博物館らしい快適で明るい空間となるよう館内全てのトイレの改修工事を行いました。

兵庫県では、少子高齢化の進展や人口減少、東京一極集中の是正等の構造的な課題に対応し、将来にわたり活力ある地域社会を構築していくため、地域創生に向けた取組を推進しています。その中で、われわれ博物館の果たす役割はますます重要になってきます。地域の自然や文化に関する研究活動や資料の収集・蓄積はもちろんのこと、それらを活用した環境学習や新たな地域活性化を支援する組織として、今後も活動を推進していく必要があります。

開館から27年目を迎えるに至る過程で、博物館を様々な面で支えて頂いた皆様に心からお礼申し上げますとともに、これからも成熟した博物館として社会に貢献し続けられるよう、厳正なご批判と、有益なご指導をいただければと期待いたします。

兵庫県立人と自然の博物館
館長 中瀬 勲